府立西淀川高等学校
校長　　重田　明彦

平成 25 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

「知・徳・体」のバランスがとれた生徒を育み「絆」を大切にする学校

1　わかる喜びや達成感を味わわせ、社会を生き抜くための「豊かな学び」(「知」)を定着させ、進路実現を図る。
2　やさしさを基盤に厳しく粘り強い生徒指導を展開し、規範意識を高めるとともに基本的生活習慣の確立に努め、豊かな人間性(「徳」)を醸成する。
3　健康で安全な社会生活が営めるよう、健全な心身(「体」)をはぐくむ。
4　生徒と生徒、生徒と教職員、教職員と保護者、そして地域や中学校との連携を強化(「絆」)する。

２　中期的目標

社会の一員として自信を持って生きていける自立した人づくり

１　社会を生き抜くための「豊かな学び」の推進

（1）新学習指導要領を踏まえ、わかる授業を展開し、社会で生き抜くことのできる学力を身につけさせる。
　ア　教材や指導法の工夫を図り、基礎的・基本的な学力を定着させるとともに、充実した言語活動を展開する。
　イ　授業公開・研究授業・授業研究・授業アンケート等を活用し、積極的に授業改善を図る。
　ウ　外部から専門家等を招き講義・講演や体験的授業を積極的に展開するとともに、授業研究を行う。
　エ　学校図書館を活用し、生徒の読書習慣を確立する。
＊35 期生における生徒向け学校教育自己診断(授業について）満足度(平成 24 年度 63%)を卒業時の平成 26 年度には 80%にする。また、図書館活用月間や読書週間を設定し、図書貸し出し冊数を平成 27 年度には 2 倍(平成 24 年度比)にする。

２　基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成

（1）社会人として自立し、社会の一員として生きていけるよう基本的な生活習慣と規範意識を身につけさせる。
　ア　あらゆる教育活動において規範意識の醸成を図り、中学校との連携を強め、きめ細かい温かみのある生徒指導を徹底する。
　イ　基本的な生活習慣が確立できるように、あいさつの励行、欠席・遅刻等の指導を徹底する。
　ウ　社会の一員として生きていけるよう長期休暇や「総合的な学習の時間」・ＬＨＲ等を活用し、キャリア教育や志学を効果的に展開する。
＊延べ遅刻数を平成 27 年度には 30%減(平成 24 年度比)にする。また、３年生の希望進路実現率(平成 24 年度 75%)を平成 27 年度には 92%にする。

３　健全な心身・人間関係力の育成

（1）美しい学校環境、安全安心な学校づくりをとおして、生徒が健康で明朗に活動できる場を提供する。
　ア　「ようこそ花と緑の西淀川高校へ」のイメージに合わせ校舎内外の環境美化をすすめ、健康教育に取組む。
　イ　部活動への参加を促し部活動の活性化を図るとともに、生徒会を中心とした学校行事の充実により学校教育全体の活性化を図る。
＊35 期生における生徒向け学校教育自己診断(学習環境について)肯定率(平成 24 年度 49%)を卒業時の平成 26 年度には 70%にする。また、部活動参加率を(平成 24 年度 19%)を平成 27 年度には 35%にする。

（2）人間関係力を身につけさせ、コミュニケーション力育成のための取組を推進する。
　ア　自らの気持ちをコントロールでき、自ら考え、判断し、行動する姿勢をはぐくみ、自尊感情を高め他者を理解しようとする心情を育てる。
＊35 期生における生活実態調査において「何でも話せる人がいる」(平成 24 年度 87%)を卒業時の平成 26 年度には 92%にする。

４　生徒・保護者・中学・地域と相互の「絆」の強化

（1）生徒・保護者と緊密な関係を築き、生徒への指導と支援を行う。また、保護者や卒業生、中学生や地域の方々の理解と支援を得るため、連携を深めるとともに広報活動の充実を図る。
　ア　日常的に家庭との連絡を密にし、保護者との連携により生徒の指導や支援に取組む。
　イ　部活動や行事等での交流、出前授業や授業の相互見学などの実践により、中学校との相互連携を深める。
　ウ　地域や中学生が参加できる行事を展開するとともに、地域での行事に積極的に参加し、地域との連携を強化する。
　エ　ホームページ等を活用してＰＲ活動を積極的に行う。
＊保護者向け学校教育自己診断(学校について）満足度(平成 24 年度 72%)を平成 27 年度には 85%にする。

５　学校経営の効率化

（1）　教育活動や業務の効率化・ＩＣＴ化を促進する。教職員の事務業務時間を減らし生徒と関わる時間を確保する。
（2）　複数の分掌や学年で作成・管理していた生徒情報について一元化を図り、教職員全員が情報を共有できる環境をつくる。
（3）　有機的に連携して業務の圧縮を図れるよう、教科、分掌、委員会の再構築をおこなう。
＊教員用学校教育自己診断に「業務の効率化・ICT 化の推進により、生徒と関わる時間が増えた」を加え、平成 27 年度は 25 年度の 20%増にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［平 25 年 12 月実施分］	学校協議会からの意見
【学校満足度】 ・「学校に行くのが楽しい」の項目では、生徒の満足度は学年進行で上昇（57%⇒59%⇒65%）したが、全学年では60%（前年度69%）にとどまった。多様な授業・多岐に渡る行事などハード面での取組は見られるが、学校全体としてリーダー層の希薄さが要因とも考えられる。今後、部活動の促進、冬フェス、夏フェスなどの縦割りの生徒交流行事に力点をおいてリーダーを育成する必要がある。 【授業満足度】 ・「授業はわかりやすい」の項目では、昨年より大きく上昇した。（昨年56%⇒今年72%）これは、「豊かな学び」の取組として展開しているTTや少人数授業、多様な外部講師授業、ICT活用等が評価されたと思われる。「教え方に工夫している先生が多い」では、教員の82%は工夫を自負しているが、生徒は70%しか認めていない。これは生徒のニーズと教員の授業に対する考え方や手法に差があることを示している。この差を埋めることが喫緊の課題とも言える。 【生徒指導等】 ・「毎朝、先生や生徒ときちんとあいさつができている」の項目では、約7割の生徒があいさつをしていると答えているが、教員の約7割がこれに対して否定的である。生徒側からのあいさつの少なさに対する評価であろう。協議会のメンバーからは、教員だけでなく生徒会など生徒から生徒にあいさつを投げかける仕掛けが効果的ではないかという意見をいただいた。 ・「きれい」というのが来校者からいただく声である。ところが、「学校は、清掃や美化に積極的に取組んでいて、きれいである」に対して、約6割の生徒しか肯定的に捉えていない。一方、9割以上の教員が「きれい」を自負している。実際に教室・廊下は清潔であるが、トイレなど一部に清掃が行き届いていない所があるので、そこへの取組が必要である。 ・生徒の56%、保護者の64%が本校の生徒指導を厳しいと評価している。それに対して、教員は23%。遅刻指導や服装指導を行えば、生徒が厳しいと思うことは当然のことであるが、そのことが生徒の卒業後の将来につながる指導であることを浸透させる努力をさらに行う必要がある。 【学校運営等】 ・「学校は教育の改善に努力している」の項目に対して、肯定的な回答は生徒の51%、保護者の56%にとどまっている。広報活動の充実（ＨＰの頻繁な更新、紙面によるニュースの配布、中学校訪問数増加等）に伴い、外部への発信は十分に行った。	第１回（平成 25 年６月 12 日） ・ていねいな指導、少人数指導、わかり易い授業など特色づくり・魅力づくりについての先生方の努力は評価できる。 ・中学校に向けた広報活動をすでに始めていることは良いことだ。西淀川高校の取組や大切にしていることを、初めての中学校ではしっかりと伝える必用がある。訪問回数を増やすだけではなく、情報提供の内容を工夫してほしい。 ・授業アンケートの実施計画、教科書の採択、財務諸表について了承。 第２回（平成 25 年 10 月 30 日） ・授業では、少人数授業、ＴＴなど工夫などを感じられる。教員と生徒の関係性も大層良く、以前に比べて生徒の授業の雰囲気も良い。教員の努力も大変であったろうと想像される。さらに継続しての工夫をして欲しい。 ・就職希望者の内定率が予想より高く、進路指導部を中心によく頑張っている。卒業までに一人でも多く「未定、その他」を減らすよう、引き続く指導を。 ・中学校に向けた校長をはじめ先生方の広報活動は、持参資料等の中身の工夫や新しい学校へのトップセールス、在学している生徒の様子の報告など回数増だけではなく評価できる。頑張ってほしい。 第３回（平成 26 年２月３日）

府立西淀川高等学校

その状況の中、83%の教員が改善に努力しているにもかかわらず、多くの生徒や保護者には認めてもらえない(或いは情報を受け取っていない)現実がある。生徒・保護者にとってどうすれば「見えるか」を工夫する必要がある。	

3　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1　社会を生き抜くための「豊かな学び」の推進	(1)わかる授業の展開、社会で生き抜くことのできる学力 ア　教材の工夫を図り、基礎的・基本的な学力の定着 イ　授業公開・研究授業・授業アンケート等を活用した授業改善 ウ　外部専門家等による講義・講演や体験的授業及び授業研究 エ　生徒の読書習慣を確立	ア・T-Week 期間やLHRにおいて本校独自教材「N－TAG」等の活用により基礎学力の向上を図り就職試験に対応できるようにする。あらゆる学習の基礎として、国語の力をつける取組を行う。 ・旧版「TAG」を含め、生徒の実態に合わせた教材改編に取組む。 ・ICT 等の情報機器や視聴覚機器を活用した授業づくりを推進する。 イ・教科を横断して生徒にあった学習・指導について研究を進め、その内容を全校的に共有する。 ・6 月・11 月の授業公開、7 月・12 月の授業アンケート及び学校教育自己診断を活用し、授業改善を推進する。 ウ・TT による授業や体験型の授業の拡充を図る。 ・学校外から教育関係者を招聘し授業研究に取組む。 エ・読書推進習慣を設定し、読書活動を推進する。	ア・実施後の生徒アンケート「力がついた」65% ・新たな独自教材の内容データの完成 イ・教職員アンケート「自教科の授業改善の参考になった」70% ・２回目の授業アンケートで生徒の授業満足度 83%(前年 78.8%) ウ・生徒向け学校教育自己診断(TT について) 肯定率 55%(前年 46%)、(体験型学習について)肯定 55%(前年 48%) ・事後教職員アンケート「授業改善につながった」70% エ・貸出図書数前年比 30%増。	ア・総合的な学習の時間やLHR を中心に独自教材「N－TAG」を活用。学校教育自己診断(生徒)では 65%が「学力向上に役立った」と評価。国語では 1 年生の 2 単位で少人数授業展開。文章表現や漢字の力をつけた。・「N－TAG」の一つとして「面接試験対応問答集(進学・就職両用)」を製作、2 年生に配布・活用。・ICT 等は iPad・電子黒板活用研修を実施。新たに数学・社会・体育等の教科で実践始める。(○) イ・学校教育自己診断では他の授業も参考にしながら授業改善に取組んでいるとする教員が 82%、２回目の授業アンケートでは授業に興味関心を持つことができたとする生徒が 84%であった。(◎) ウ・２回目の授業アンケートでは TT による授業がよくわかるとした生徒が 74%、少人数による授業がよくわかるとした生徒が 86%であった。学校教育自己診断(生徒)では体験型授業がよいとしたものが 52%であった。・本年も和歌山大の平田准教授と授業研究を実施。2 月末予定の総括研修でアンケート予定。(◎) エ・貸出図書数は 606 冊(1/20 現在)で 163%の増であった。(◎)
2　基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成	(1)基本的生活習慣の確立と規範意識の定着 ア　規範意識の醸成、中学校との連携強化し、きめ細かい温かみのある生徒指導の徹底 イ　あいさつの励行、欠席・遅刻等の指導の徹底 ウ　キャリア教育や志学の展開	ア・教育相談を含む生徒指導に関する職員研修を実施する。 イ・毎朝、教員が交替で校門での登校指導の取組を行う。 ・定期的に『遅刻０週間』指導を行うとともに、欠席・遅刻の多いら生徒については家庭連絡を徹底し、保護者の支援を要請する。 ウ・就労意欲をもたせるようインターンシップや個別キャリアカウンセリングを実施するとともに３年間を俯瞰したキャリア教育の取組を推進し、生徒の進路希望実現をめざす。	ア・研修後のアンケート肯定率 70%。 イ・遅刻一人当たり数前年比 15%減。 ・欠席一人当たり数前年比 10%減。 ウ・3 年生の希望進路実現率 83%(前年 78%)	ア・衝動コントロールについて大久保医師の研修実施。事後アンケートで「参考になった」96%。性被害と性加害について大阪大・野坂准教授の研修実施。事後アンケートで「参考になった」88%。(◎) イ・毎朝の校門・駐輪場指導、定期的な『遅刻０週間』を実施。家庭連絡や訪問を実施し欠席気味の生徒の登校を促進するが、生徒 1 人当たりの遅刻数前年比 5%増。欠席総数前年比 2.8%減。(2 学期末現在)(△) ウ・進学、就職等 3 年生で進路の進路の決定しているのは卒業予定者の 77%。(1/25 現在)・2 年生対象インターンシップに 14 名(昨年の 2.3 倍)参加。(○)
3　健全な心身・人間関係力の育成	(1)美しい学校環境、安全安心な学校づくり ア　校舎内外の環境美化 イ　部活動活性化、学校行事の充実 (2)人間関係力、コミュニケーション力育成 ア　自己コントロール、主体性の育成	(1)ア・校舎内外の清掃美化を徹底するとともに、植物の育てる中で生徒に優しい心をはぐくむ。 ・生徒の清掃ボランティアを支援する。 イ・部活動への参加を促し部活動の活性化を図る。生徒会を中心として学校行事を充実させる。 (2)ア・授業を中心として人間関係力を身につけさせる取組(意見交換やプレゼンテーション)を行う。 ・外部講師を招く等、コミュニケーション力をつけるプログラムを展開する。 ・いじめの未然防止のため教職員の研修を行うとともに、LHR 等を活用して生徒への指導を行う。	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断(学習環境について) 肯定率 60%(前年 53%) ・年間延べ参加者 10%増 イ・部活動加入率前年比 10%増。 (2) ア・実施後の生徒向けアンケート「自信がもてた」60%「これからの人間関係づくりに役に立てたい」60% ・研修後の教職員向けアンケート「いじめは見逃さない」100%。生徒向けアンケート「校内でいじめなし」100%	(1) ア・学校教育自己診断において保護者は 71%、教員は 94%が学校はきれいで良い学習環境だとした。生徒は 61%であった。・部員が大幅に増えたエコ部による早朝清掃活動(毎朝)、学校周辺ゴミ拾い(週 1 回)は定着し 1 年間継続。(◎) イ・部活動加入率は前年度比 2%減。生徒会による学年を横断した行事として夏フェス、WinterFestival を開催し、部活動勧誘・リーダー育成を図った。参加は延べ 40 名。(△) (2) ア・各学年で希望者対象にコミュニケーション講座を開催。延べ 62 名が参加。参加した生徒の事後感想文では「人前でしゃべる自信がついた」が 8 割以上であった。・総合的な学習の時間を活用し携帯電話でのいじめ防止研修を実施。情報の授業でも 8 時間を使ってインターネット上でのいじめ防止を指導。生徒の事後感想文では「よく理解できた」が 9 割以上であった。(○)
4　生徒・保護者・中学・地域と相互の「絆」の強化	(1)生徒・保護者と緊密な関係構築。広報活動の充実 ア　家庭連絡、保護者との連携 イ　中学校との相互連携 ウ地域・中学生が参加できる行事展開、地域行事に参加 エ　ホームページ、ＰＲ活動	ア・日常の面談・相談・電話等の連絡・家庭訪問・中学との連携等により生徒・保護者と緊密な関係を築く。 イ・区内の中学校を中心に部活動や行事等での交流、出前授業や授業の相互見学などの実践により、中学校との相互連携をさらに深める。 ウ・「環境フェスタ」、「菜の花プロジェクト」等の取組をさらに推進し、地域、中学生が参加できる事業にする。また、本校生徒が地域での「区民まつり」「地域清掃」といった行事に積極的に参加し活躍できるよう、地域との連携を強化する。 エ・閲覧者を意識し、ホームページの改善・更新に取組む。 ・紙面によるニュースの他、多様な媒体を活用して広報の充実を図る。	ア・中学校訪問回数 15%増 イ・延べ交流・連携回数前年比 20%増 ウ・行事への地域・中学生の来校者総数 20%増。地域等行事への生徒参加総数 10%増。 エ・ホームページの更新回数前年比 15%増。 ・「学年通信」「保健室だより」等の発行回数前年比 10%増。新たな学校紹介パンフレット等の完成。	ア・連携や広報のため、中学校への訪問は延べ 263 回で前年より 84%の増となった。(1/19 現在)(◎) イ・出前授業は、新北野中学校、西淀中学校、淀中学校、出来島小学校で実施(2 校 2 日増)。授業見学や情報交換等で小中学校から延べ 52 名の教員が来校(昨年度より 108%増・1/18 現在)。(◎) ウ・「環境フェスタ」、「菜の花プロジェクト」等の本校の行事への来校者総数は延べ 287 名(昨年度より 30%増・オープン・スクールを含まず)。「区民まつり」「地域清掃」等の行事への本校生徒の参加は 30 回(昨年度より 114%増)参加総数は延べ 64 名(昨年度より 19%増)。地域との連携を強化することができた(◎) エ・ホームページの更新回数は 117 回(昨年度より 24%増・1/25 現在)、アクセス数は 2100 回(昨年度より 39%増・1/25 現在)となり、多くの本校の情報を保護者・地域・府民に向けて発信できた。・「学年通信」「学級通信」「メルマガ」「保健室だより」等の発行が積極的の行われ延べ 101 号(回)の発行があり、前年より 12%の増となった。新制服の紹介を兼ねた学校パンフを 3000 部作成し、学校説明会等で配布したほか府内の中学校に送付した。新たな学校案内のデザインを決定した。(◎)